



桃五だより



No.609

(3月号)

2022.2.28

杉並区立桃井第五小学校

<https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/>

母 校

校 長 川 田 忠

6年生が「卒業プロジェクト」と称して、総合的な学習の時間などを活用し、様々な活動に取り組んでいます。3月25日の卒業式までの時間は限られていますが、子供たちで組織した実行委員会を中心にした取り組みを学年全体で行っています。

卒業アルバムづくり、「6年生を送る会」の返礼準備、クラス対抗大会の企画といった例年行っていることに加えて、全校や保護者へのお礼の掲示物を作ったり、あいさつプロジェクトを進めたりしています。

6年生にとっては、幼稚園や保育園の卒園とは違って、様々な感情が交錯する時間となります。もの心が付いて初めて味わう友達や下級生、教員とお別れの場であり、個々に違いがあるとはいえ、近づく卒業の日に向けて内心は動き続けているのでしょう。6年生を送る会などで下級生からのお祝いを受けるたびに、卒業を意識する毎日となっています。

その中で、6年生の子供たちが互いに強く結びつき、みんなで桃五小への感謝を伝えようとしているのを感じます。ただ単に、卒業前のイベントとして様々な活動を進めるのではなく、この学校に何かを残したい、桃五小で味わった楽しさや喜びへの恩返しをしたいといった思いを感じます。まさに最高学年として、今年度のいろいろな場面を全力で過ごしてきたプライドの表れなのでしょう。

それでいいのだろう、と思っています。卒業の場を

とことん味わう。一つの大きな節目である小学校を卒業することに対して、きちんと向き合うことが大事な経験であると考えます。6年間、共に過ごしてきた仲間たちとの時間を楽しみながら、一つでも多くのかげがえのない思い出を積み重ねてもらいたいと願っています。

母校という言葉があります。母なる学校。意味の深い、いい言葉です。何といたっても響きがいい。母校という言葉聞いたときに、大人はいくつかの学校を心に蘇らせることでしょう。

形の上では、卒業した学校はすべて母校になります。卒業した回数だけ、母校はある。ただ、学校に携わる者からすると、母なる学校と真に思える学校、本物の母校を心にもって人生を歩む幸せさに思いを馳せます。何かの折には母校での時間を思い出し、さらに豊かな今を追求するためのエネルギーとしていく、そんな役割を学校が果たしていけたらと思っています。

桃五小を卒業していく子供たちにとって、桃井第五小学校が真の母校となるように、残りの一か月をこれまで以上のいい時間としていきたい。そして、5年生以下の子供たちにとっても、いつかは母校と思えるような充実感、満足感を味わう3月にしていきたい。25日、晴れやかな表情をした子供たちを、母校桃五小から送り出します。

3月の生活指導目標 1年間のまとめをしよう

3学期も残りわずかとなりました。「整理整頓」「後始末」といった片付けの習慣をしっかりと身に付けることはできたでしょうか。片付けをきちんとすることが学習や生活の向上につながり、気持ちのよい生活を送ることにつながるという経験を、少しずつ積み重ねさせていきたいものです。

3月は1年間のまとめの月です。ご家庭でも1年間のできるようになったことを振り返ってみてください。